

## 第4章 市民意向アンケート調査

### 4-1 調査概要

#### 1)調査目的

「第二次栗東市住生活基本計画」の策定にあたって、市内に居住している住民を対象としたアンケート調査を実施し、住まいの状況や住宅・住環境の満足度、定住意向等の計画策定に必要な意向を把握した。

#### 2)調査対象

栗東市在住の 1,200 世帯の住民を対象に調査を実施した。また、1,200 世帯の抽出にあたっては、各小学校区の世帯数を考慮して配布数の設定を行った。

表 4-1 小学校区ごとの人口総数・世帯数を配慮したアンケート配布部数

小学校区名	人口総数	世帯数	市全体における世帯数割合	配布数
金勝小学校区	6,600	2,641	9.2%	113
葉山小学校区	7,761	3,459	12.0%	121
葉山東小学校区	7,544	2,985	10.4%	120
治田小学校区	10,312	4,285	14.9%	173
治田東小学校区	7,333	2,959	10.3%	119
治田西小学校区	9,847	4,306	15.0%	186
大宝小学校区	9,044	3,504	12.2%	158
大宝東小学校区	5,940	2,295	8.0%	102
大宝西小学校区	5,959	2,284	8.0%	108
総数	70,340	28,718	100.0%	1,200

#### 3)調査スケジュール

アンケートの調査は以下の日程で実施した。

配布：令和2年12月15日（火）～ 回収締切：令和3年1月15日（金）

#### 4)回収率

総回収数 484 票（回収率 40.3%）であった。

## 4-2 集計結果

### 1) 回答者の属性

#### ① 回答者・家族の状況

- 性別は、「男性(47.9%)」「女性(50.8%)」。年齢は、「70代(20.5%)」が最も多く、「80代(7.4%)」が最も少ない。「30代～60代」は、概ね同じ割合となった。
- 家族人員は、「2人世帯(31.2%)」「3人世帯(24.4%)」「4人(20.2%)」が多く、全体の7割以上(75.8%)を占める。
- 家族構成は、「夫婦と子(41.1%)」「夫婦のみ(26.7%)」が多く、全体の約7割(67.8%)を占める。
- 同居家族は、「65歳以上(31.8%)」との同居が3割以上ある。一方で、「いずれもない(29.1%)」の回答も約3割となった。
- 栗東市での居住年数は、「30年以上(47.1%)」と最も多く、全体の約5割を占める。

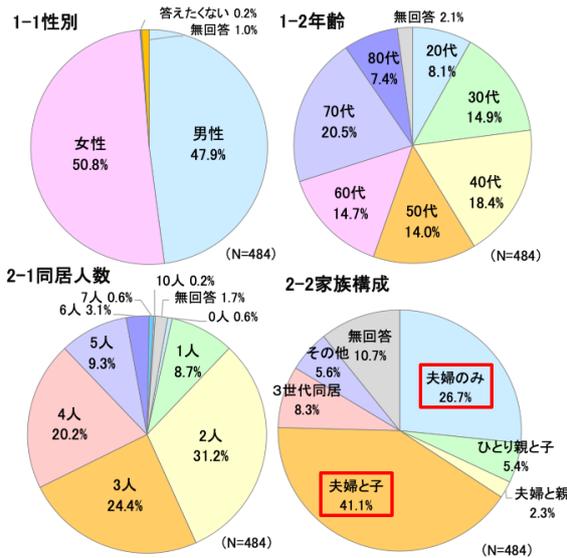


図4-1 性別・年齢・家族構成

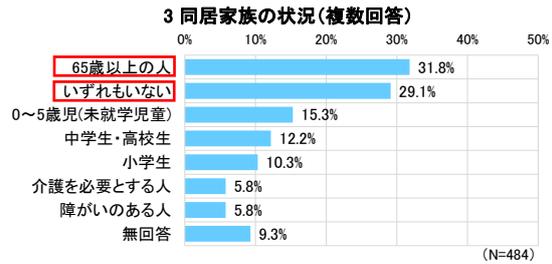


図4-2 同居家族の状況・栗東市居住年数

#### ② 居住状況・通勤通学の状況

- 現在の居住地(小学校区別)は、「金勝(8.1%)」が比較的少ないが、概ね同じ割合となった。
- 現在の居住地での居住年数は、「30年以上(34.3%)」と最も多く、次いで「10年以上30年未満(33.7%)」と、10年以上現在の居住地区に住んでいる人が、全体の約7割(68.0%)を占める。
- 車は、「持っている(90.9%)」が約9割。保有台数は、「1台(44.1%)」が最も多いが、「2台(35.5%)」も3割を超えている。
- 職業の状況は、「会社員・公務員(35.7%)」が多く、次いで「無職(22.1%)」「専業主婦(主夫)(17.6%)」となった。
- 全体の通勤・通学先は、県内の「市外(54.2%)」「市内(32.3%)」で「県外(9.7%)」は約1割となった。

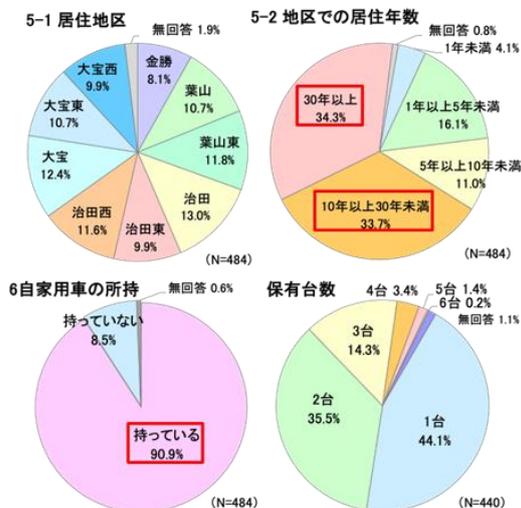


図4-3 居住地区・地区居住年数・車保有台数

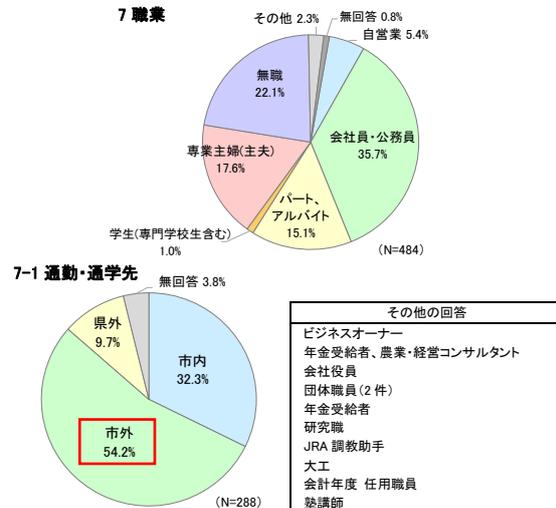


図4-4 職業・通勤通学先

### ③ 居住形態・住宅の建築年数

- 居住形態は、全体では「持家(戸建て)(70.0%)」「持家(共同住宅)(9.7%)」と持家が全体の約8割(79.7%)を占める。
- 現在の住宅の建築年数は、全体では「30年～50年未満(24.0%)」が最も多く、次いで「10年～20年未満(22.5%)」「20年～30年未満(20.5%)」と、10年以上現在の居住地区に住んでいる人が、全体の約7割(74.4%)を占める。
- 家族構成別の居住形態をみると、「ひとり親と子」では「借家(共同住宅)(26.9%)」と借家の割合が高い傾向にある。
- 家族構成別の建築年数をみると、「夫婦と子」世帯で、10年未満の割合が他の家族構成に比べて高く、比較的建築年数が少ない傾向がみられる。

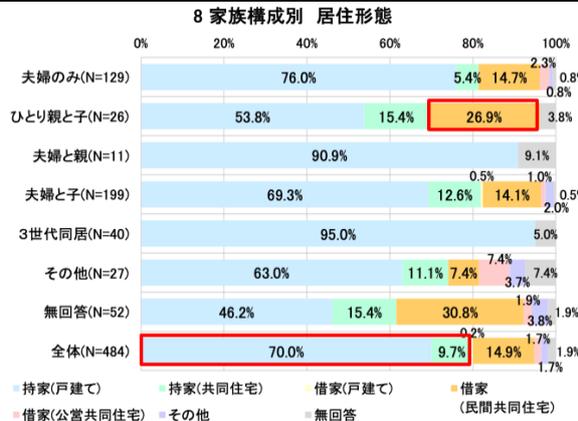


図4-5 家族構成別 居住形態

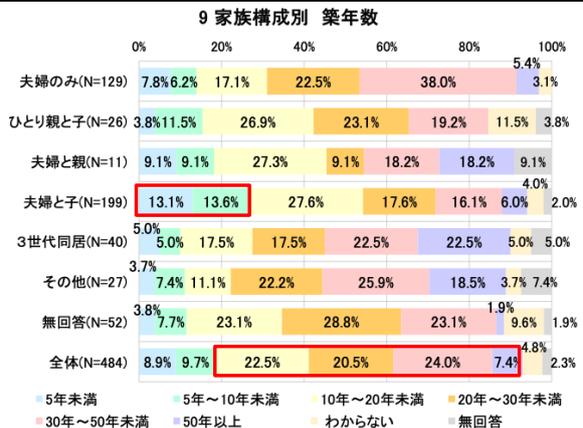


図4-6 家族構成別 住宅の築年数

## 2) 住宅・住環境

### ① 住宅に対する満足度

- 現在の住宅に対する「総合的な評価」では、「満足+やや満足(45.2%)」、「普通(41.9%)」、「不満+やや不満(13.0%)」と、全体として不満率は低かった。
- 評価の項目別にみると、「満足+やや満足」が多いのは、「広さ・間取り(59.5%)」「駐車スペース(47.3%)」で、「不満+やや不満」が多い傾向にあるのは、「バリアフリー対応(手すり・段差解消等)(35.9%)」「環境性能(断熱性や省エネ設備)(31.9%)」となった。
- 住宅の面積的な評価の満足度は高く、質的な評価の満足度が低い傾向となった。
- 家族構成との関連をみた場合、「総合的な評価」は「夫婦のみ」「ひとり親と子」世帯では、不満と感じる人が比較的多い傾向となった。

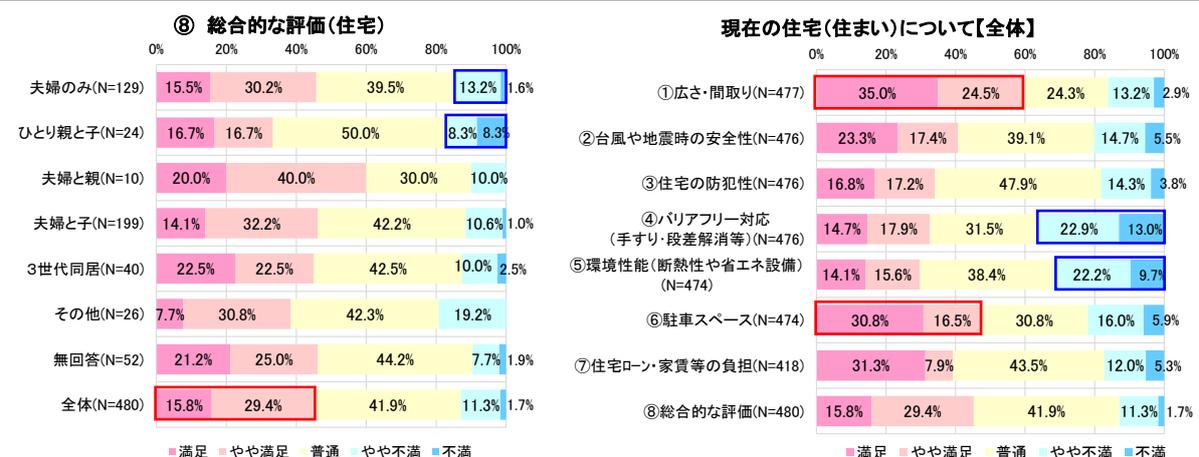


図4-7 住宅に対する満足度(総合評価、評価項目別比較)

## ②住環境に対する満足度

- 住環境に対する「総合的な評価」では、「満足+やや満足(27.9%)」「普通(58.4%)」「不満+やや不満(13.7%)」と、全体として不満率は低いものの、住宅に対する評価と比較すると、「普通」と評価する割合が高く、満足率は低い傾向にある。
- 評価項目別にみると、「満足+やや満足」が多いのは、「買い物、医療などの利便性(45.3%)」「緑の豊かさ、街並み、景観(35.5%)」で、「不満+やや不満」が多い傾向にあるのは、「子どもの遊び場(29.0%)」「通勤・通学などの利便性(27.8%)」「敷地やまわりのバリアフリー化(26.7%)」となった。
- 住環境では、生活の利便性に対する満足度は高く、生活の安全面や子育て世代支援に係る項目で満足度が低い傾向となった。

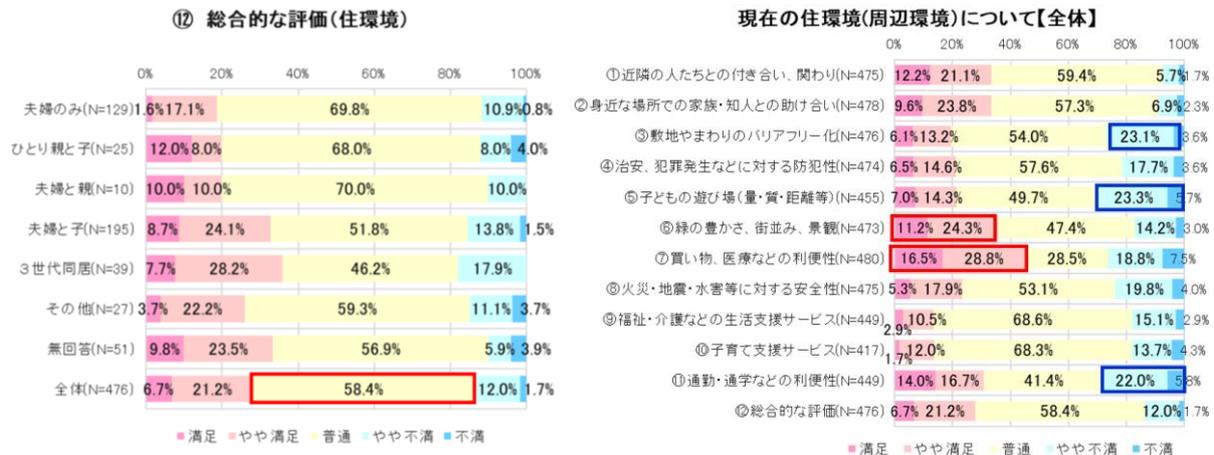


図4-8 住環境に対する満足度(総合評価、評価項目別比較)

## ③住宅と住環境の満足度と居住年数の関連性

- 住宅、住環境に対する評価を、居住年数別にみると、「1年未満(65.0%)」「1年以上5年未満(56.4%)」「10年以上30年未満(52.1%)」で満足度が高い傾向がある。
- 住宅では、居住年数が長くなると不満度が高くなる傾向がみられるが、居住年数が長くなれば、住宅の老朽化といった問題が発生し始めることが理由にあると推察される。
- 居住年が1年未満の場合「満足+やや満足(45.0%)」が多く、住宅や居住地を選択してからの期間が短いため、満足度が高く、不満も少ないといった理由も推察される。

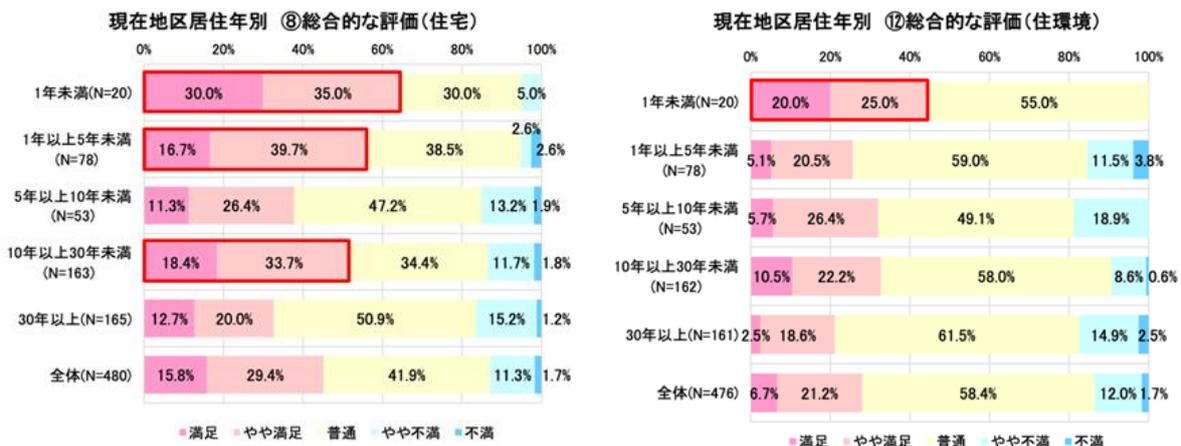


図4-9 居住年数と満足度(総合評価、評価項目別比較)



## 4)定住・転居意向と住み替え意向

### ①定住・転居意向と住み替えできない理由

- 定住・転居意向は、全体では「住み続けたい(59.7%)」が最も多く、次いで「いずれは住み替えたい(19.0%)」「住み替えたくてもできない(15.7%)」「住み替え予定がある(2.7%)」となっており、「住み続けたい」という定住意向は高い。
- 家族構成別にみると、その他や無回答を除く「ひとり親と子」以外の世帯で、「住み続けたい」が6割を超えている中で、比較的、住替え意向が高いのは、「ひとり親と子(38.4%)」「3世帯同居(37.5%)」「夫婦と子(36.7%)」(住み続けたい・無回答を除いた計)である。
- 住み替えたくても住み替えられない理由は、全体では「資金がないから(67.1%)」が最も多く、次いで「雇用や家計の先行きに不安を感じているから(10.5%)」で、全体の約8割(77.6%)と経済的な理由が大きい。

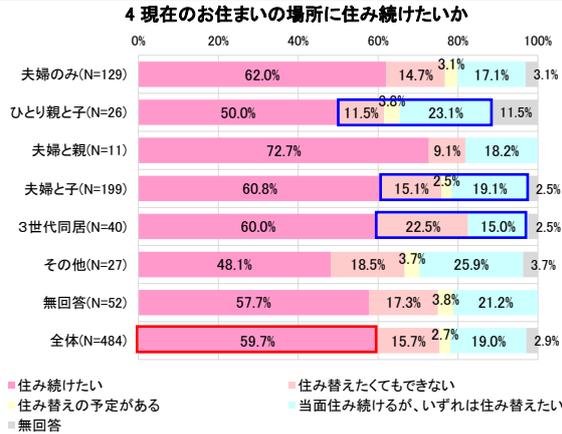
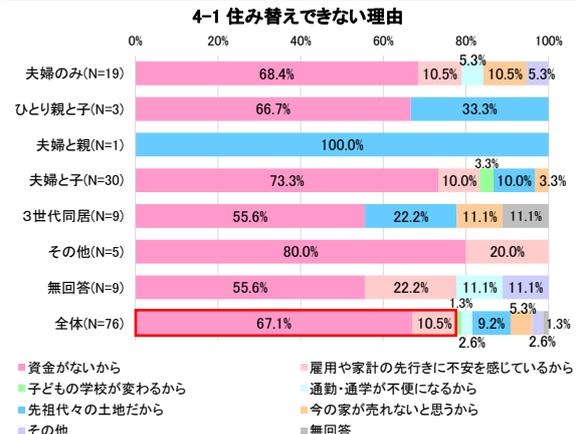


図4-12 定住・転居意向



- その他の回答
- ・ 栗東市に適切な賃貸が無い
  - ・ 年齢が高くなり動けないので
  - ・ 住環境が素晴らしい

図4-13 住み替えできない理由

### ②住み替えたい場所とその理由

- 住み替えたい場所は、全体では「市内の街なか(28.2%)」が最も多く、次いで「県内の他市町(14.9%)」となった。
- 住み替えたい場所を選択した理由は、アクセスや生活の利便性(22件)、駅の近くや公共交通の利便性(15件)といった日常生活の利便性をあげる意見が多くみられた。
- 県内他市町で具体的に挙げられたのは、草津市(17件)、守山市(6件)、大津市(3件)、県外では京都府(5件)、大阪府(2件)等である。

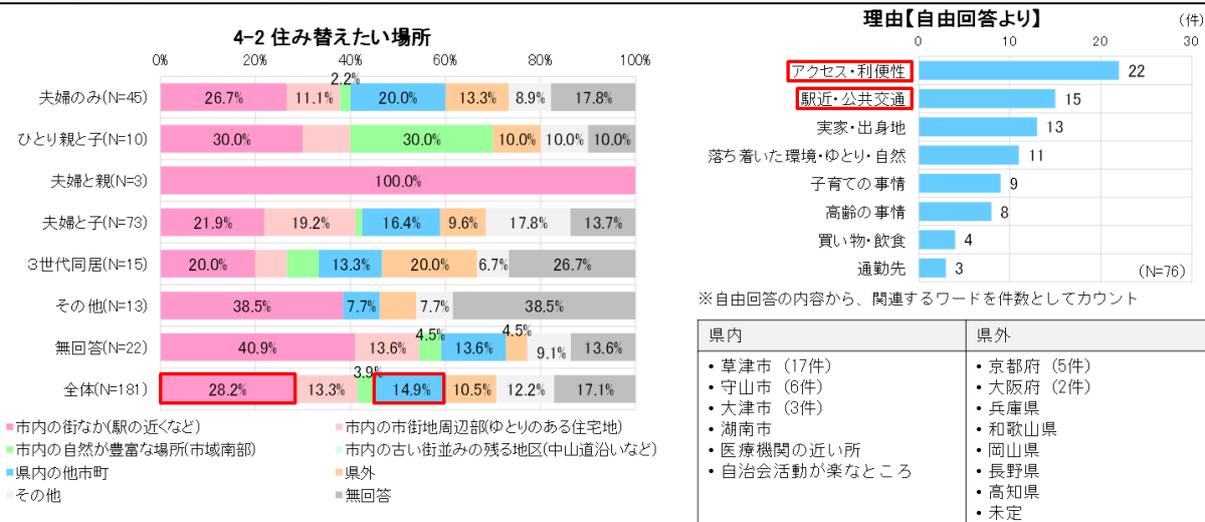


図4-14 住み替えたい場所とその理由

## 5)住宅や住環境で重視する点

- 順位別の状況を見ると、優先順位(1位、2位)としては、「9. 日常の買物、医療施設などの利便性」「1. 地震・台風等の災害に対する安全性」が挙がり、3位では「13.福祉・介護等の生活サービス」が多く挙げられ、**利便性・安全性が重視される傾向**となっている。
- 住宅や住環境の重視点は、総合評価(合計点)で、「日常の買物、医療施設などの利便性(1,291点)」が特に多く、次いで「地震・台風等の災害に対する安全性(817点)」「火災・地震・水害などに対する安全性(594点)」「福祉・介護等の生活支援サービス(503点)」が上位に挙げられている。
- 住宅を選ぶ際には、**日常生活における利便性が最も重視され**、次いで、**安全・安心して暮らせる住宅・住環境が重視**されている。

表4-2 今後住宅を選ぶ際に重視する点(順位ごとの結果)

		1位	2位	3位	4位	5位	得票計
住宅	1. 地震・台風等の災害に対する安全性	98	35	38	28	17	216
	2. 空き巣などに対する防犯性	3	21	8	17	23	72
	3. 高齢者や障がいのある人への配慮(段差解消など)	28	22	19	16	17	102
	4. 台所、浴室、空調などの省エネ対応	8	15	14	18	18	73
	5. 住宅の維持や管理のしやすさ	38	24	34	29	30	155
	6. 住宅の断熱性や気密性	4	16	20	10	20	70
周辺環境	7. 火災・地震・水害などに対する安全性	44	50	37	21	21	173
	8. 治安、犯罪発生の防止	15	34	44	53	30	176
	9. 日常の買物、医療施設などの利便性	106	108	68	52	21	355
	10. 周辺道路の歩行時の交通安全性	3	13	27	17	31	91
	11. 敷地や周りのバリアフリー化	2	7	9	8	13	39
	12. まちなみ、景観	7	11	9	18	28	73
その他	13. 福祉・介護等の生活支援サービス	19	24	54	54	42	193
	14. 近隣の人たちや地域との関わり	4	8	15	28	31	86
	15. 子育て支援サービス	11	16	13	11	14	65
	16. 親や子ども、親戚との住宅の距離	9	3	6	8	22	48
	17. 通勤・通学の利便性	37	33	20	39	32	161
	18. 緑・水辺など自然とのふれあい	8	7	10	14	31	70
	19. その他	3	1	1	2		7
無回答		37	36	38	41	43	—
総計		484	484	484	484	484	—

※1位ピンク、2位オレンジ、3位黄色の着色

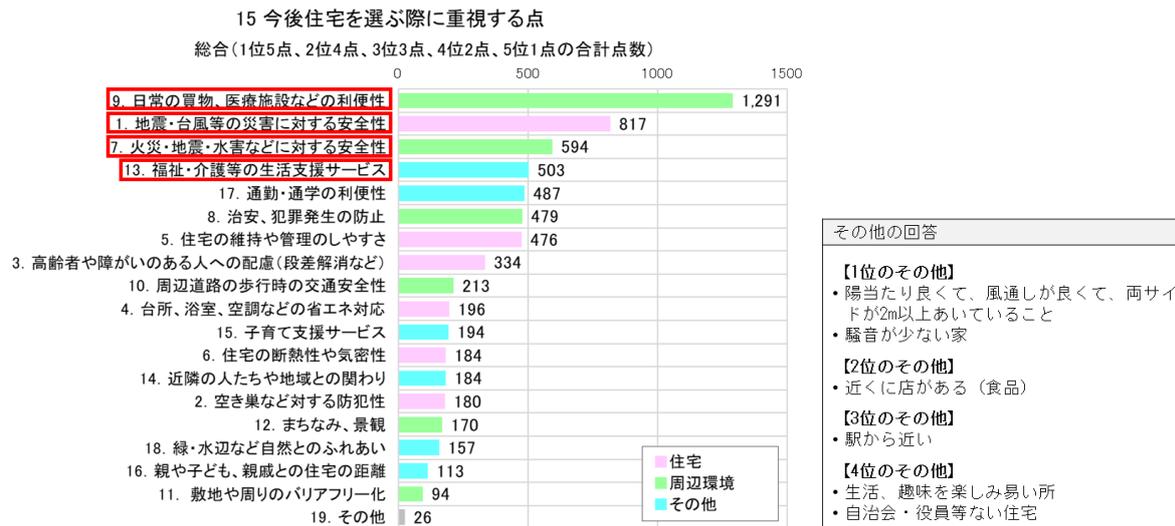


図4-15 今後住宅を選ぶ際に重視する点

## 6)住宅リフォームの予定とその内容、リフォームを予定していない理由

- リフォームは、全体では「現在予定はない(48.8%)」が全体の5割近くを占め、次いで「すでに実施した(18.0%)」「賃貸なのでできない(14.7%)」「今後実施を考えている(13.8%)」であり、リフォーム予定の無い世帯が多い。
- リフォーム内容は、「台所や浴室、トイレの改善(63.6%)」が最も多く、次いで「屋根、外壁の改善(46.1%)」「内装の改善(45.5%)」が多い。一方、「設備に関する省エネルギー化(14.9%)」「基礎、構造の補強(耐震化)(9.1%)」は少ない。
- 予定していない理由は、「今の住まいに満足(44.5%)」が最も多いが、「資金がなくあきらめている(21.2%)」が次に多く、経済的な理由が多い。

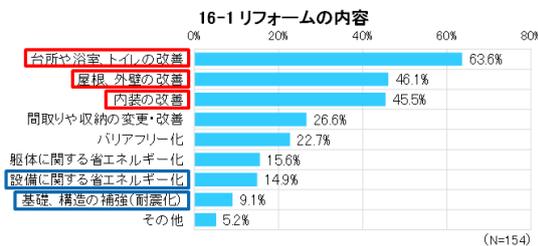
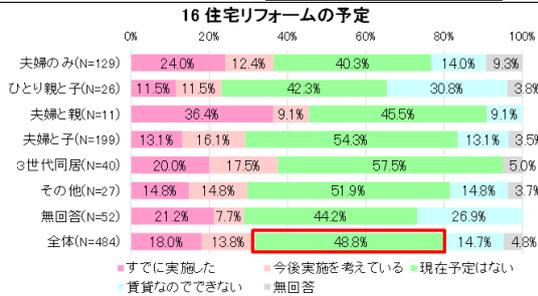
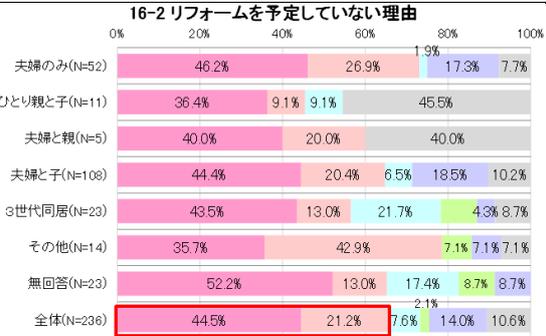


図4-16 リフォーム予定とその内容



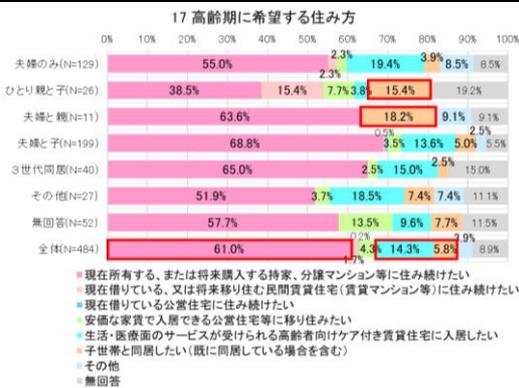
- その他の回答
- ・必要ではない、特に考えていない (13件)
  - ・実施済み、まだ新しい (7件)
  - ・持家ではないから (4件)

図4-17 リフォームを予定していない理由

## 7)高齢期の住宅・住環境

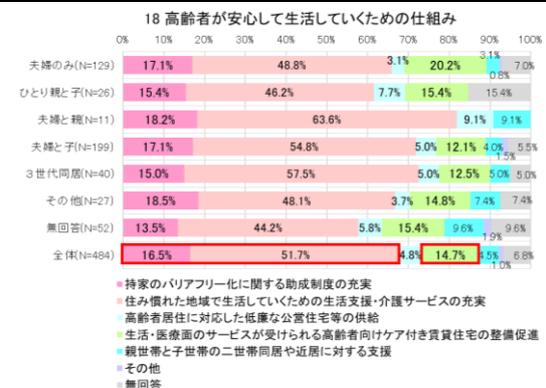
### ①高齢期に希望する住み方と安心して生活していくための取組

- 高齢期に希望する住み方は、全体では「現在所有する、または将来購入する持家、分譲マンション等に住み続けたい(61.0%)」が最も多く全体の6割を超えている。次いで「生活・医療面のサービスが受けられる高齢者向けケア付き賃貸住宅に入居したい(14.3%)」「子世帯と同居したい(既に同居している場合を含む)(5.8%)」となった。
- 安心な生活に必要な取り組みは、全体では「住み慣れた地域で生活していくための生活支援・介護サービスの充実(51.7%)」が最も多く、次いで「持家のバリアフリー化に関する助成制度の充実(16.5%)」「生活・医療面のサービスが受けられる高齢者向けケア付き賃貸住宅の整備促進(14.7%)」となった。
- 家族構成別では「ひとり親と子」「夫婦と親」で「子世帯と同居したい(既に同居している場合を含む)」が多い傾向がある。



- その他の回答
- ・今の良い (3件)
  - ・両親、子供と同居したい (3件)
  - ・分からない、考えていない (7件)
  - ・安価な賃貸に入居したい (2件)
  - ・シルバーマンション+店+公園

図4-18 高齢期に希望する住み方



- その他の回答
- ・バスの増便(上砥山⇄草津)
  - ・緊急時のホットライン(簡単に助けが呼べる)
  - ・免許を返納した後のサポート
  - ・必ずつながる人が1人でもいること
  - ・低コストサービスが受けられる事(年金で月々の支払いができる事)

図4-19 高齢者が安心して生活していくための仕組み

## ②高齢者が安心して生活していくために必要な住宅性能

- 高齢者の安心な生活に必要な性能は、「玄関外のスロープの設置などによる段差の解消(62.0%)」「手すりの取り付け(61.6%)」が多く約6割、次いで「滑りの防止や移動を円滑にするための床材の変更(38.6%)」「便器や浴槽の取り換え(31.8%)」「玄関や廊下、ドアなどのスペースの確保(31.2%)」となった。
- 「その他」の回答としては、バリアフリー、ヒートショック防止等のシステムの整備や見守り、緊急時等のサービス体制の充実が挙げられている。

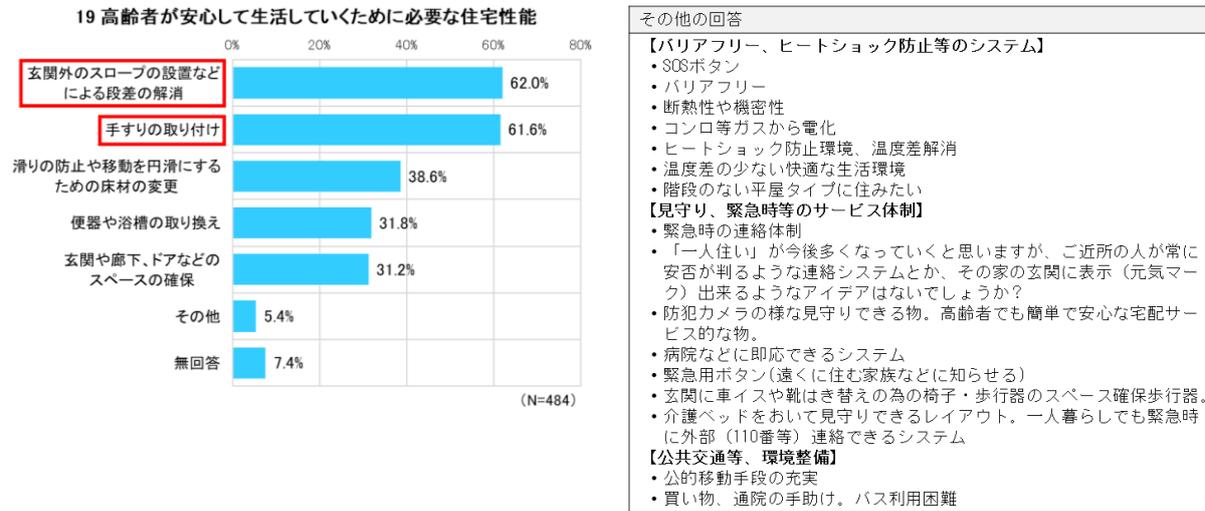
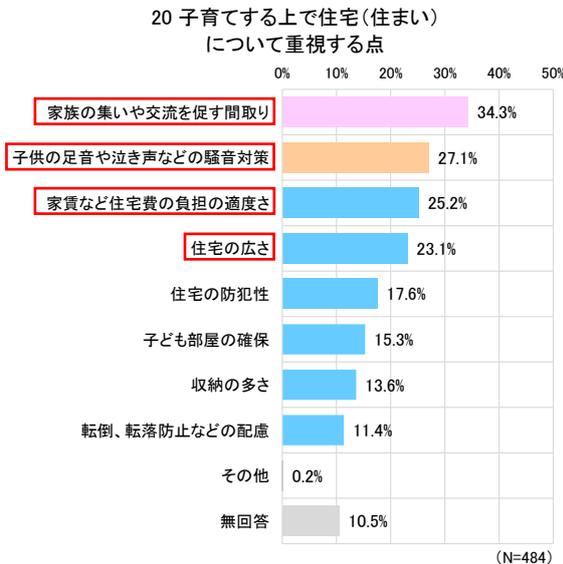


図4-20 高齢者が安心して生活していくために必要な住宅性能

## 8)子育てにおける住宅・住環境

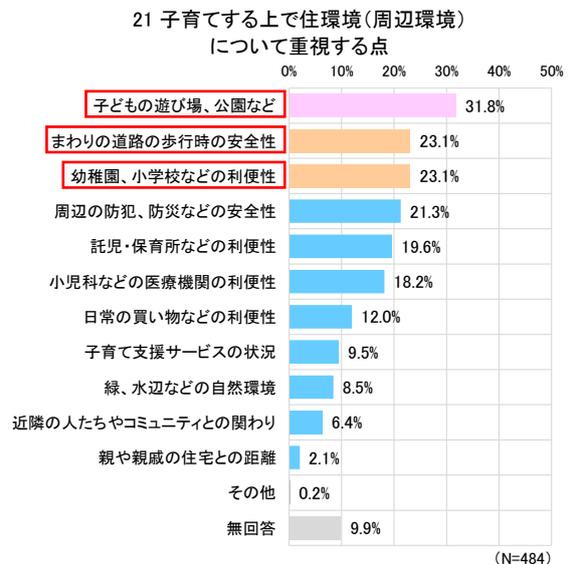
### ①子育てする上で住宅・住環境について重視する点

- 子育てする上で住宅について重視する点は、「家族の集いや交流を促す間取り(34.3%)」が最も多く、次いで「子供の足音や泣き声などの騒音対策(27.1%)」「家賃など住宅費の負担の適度さ(25.2%)」「住宅の広さ(23.1%)」が多い。
- 子育てする上で住環境について重視する点は、「子どもの遊び場、公園など(31.8%)」が最も多く、次いで「まわりの道路の歩行時の安全性(23.1%)」「幼稚園、小学校などの利便性(23.1%)」が多い。



※1位ピンク、2位オレンジの着色

図4-21 子育てする上で住宅(住まい)について重視する点

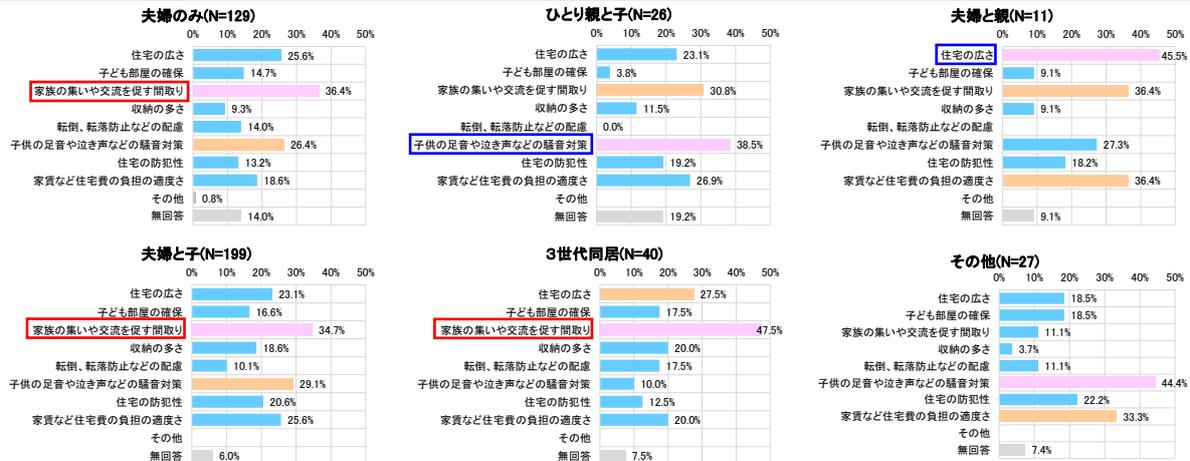


※1位ピンク、2位オレンジの着色

図4-22 子育てする上で住環境(周辺環境)について重視する点

## ② 家族構成との関連性から見た子育てする上で住宅について重視する点

○子育てする上で住宅について重視する点は、家族構成別にみると、「夫婦のみ(36.4%)」「夫婦と子(34.7%)」「3世代同居(47.5%)」世帯では「家族の集いや交流を促す間取り」が最も多くなっている。  
 ○「幼稚園、小学校などの利便性(ひとり親と子:30.8%)」世帯では「子供の足音や泣き声などの騒音対策(38.5%)」が最も多く、「夫婦と親」世帯では「住宅の広さ(45.5%)」が最も多くなっている。

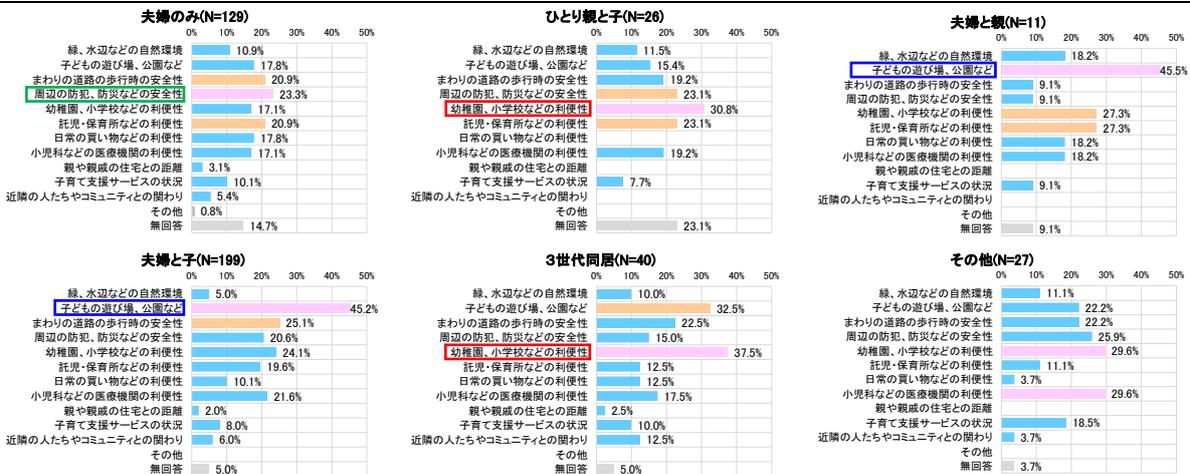


※1 位ピンク、2 位オレンジの着色

図4-23 回答者の家族構成との関係性から見た子育てする上で住宅について重視する点

## ③ 家族構成との関連性から見た子育てする上で住環境について重視する点

○子育てする上で住環境について重視する点は、「ひとり親と子」と「3世代同居」世帯では「幼稚園、小学校などの利便性(ひとり親と子:30.8%、3世代同居:37.5%)」が最も多く、「夫婦と親」「夫婦と子」世帯では、「子どもの遊び場、公園など(夫婦と親:45.5%、夫婦と子:45.2%)」が最も多くなっている。  
 ○「夫婦のみ」世帯では、「周辺の防犯、防災などの安全性(23.3%)」が最も多くなっている。



※1 位ピンク、2 位オレンジの着色

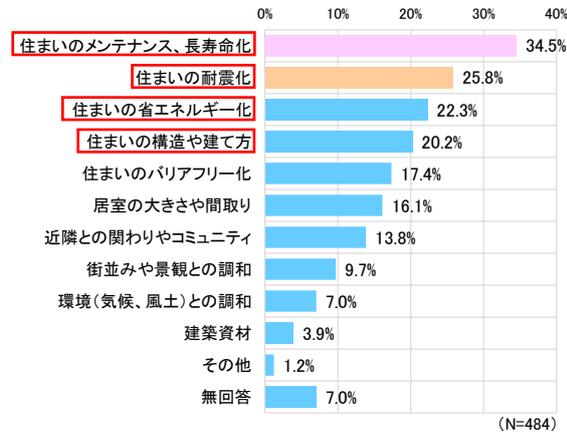
図4-24 回答者の家族構成との関係性から見た子育てする上で住環境について重視する点

## 9)住宅・暮らしに関する情報への関心

### ①住宅と暮らしに関する情報について関心のある内容

○住宅・暮らし情報への関心度は、「住宅のメンテナンス、長寿命化(34.5%)」が最も多く、次いで「住まいの耐震化(25.8%)」「住まいの省エネルギー化(22.3%)」「住まいの構造や建て方(20.2%)」といった情報への関心が高い。

22 住まいと暮らしに関する情報で関心のあること



#### その他の回答

- ・高齢者にやさしい環境作り
- ・今のままでよい
- ・自分の居住エリア近隣のイベントや飲食店など、楽しく暮らすための情報
- ・防音、ネット環境
- ・騒音対策

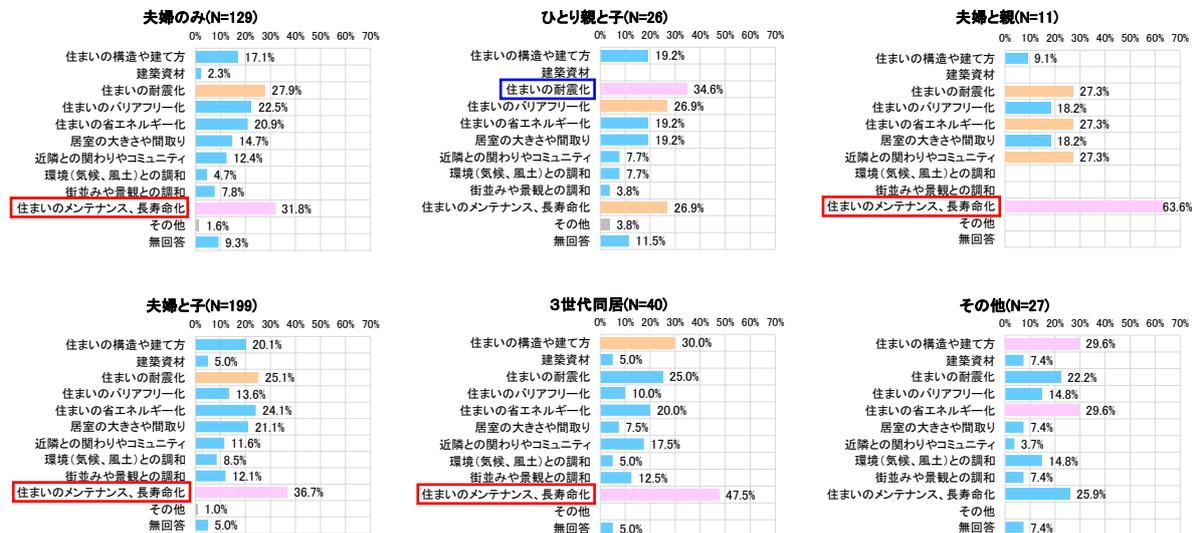
※1 位ピンク、2 位オレンジの着色

図4-25 住まい・暮らしに関する情報への関心度

### ②家族構成との関連性からみた住宅と暮らしに関する情報について関心のある内容

○住宅・暮らし情報への関心度について、家族構成別にみると「ひとり親と子」世帯以外では「住まいのメンテナンス、長寿命化」が最も多くなっている。

○「ひとり親と子」世帯では「住まいの耐震化(34.6%)」が最も多くなっている。



※1 位ピンク、2 位オレンジの着色

図4-26 回答者の家族構成別住まい・暮らしに関する情報への関心度